

公益法人制度改革のもと、 医療の分野における 公益事業の一層の活性化をめざす



理事長
石川 博一

社会全体が2025年問題を迎える中において、病院経営の収支悪化、医学系研究における国際競争力の低下、医師やスタッフの人材不足が危惧されるなど、医療を取り巻く環境は厳しく多様な課題に直面していると言われています。戦後間もない昭和22年（1947年）に、国民の保健衛生の再興と向上発展を念頭に開設された三越診療所をルーツとする当事業団も、難しい事業運営を余儀なくされていますが、多くの方に診療所、健診センターをご利用いただくとともに、健康セミナー等にご参加いただき、ご支持をいただけているものと感謝しています。

令和7年（2025年）4月からは改正公益法人法が施行され、社会変化に柔軟・迅速に対応し、民間公益の担い手としてより効果的な活動が展開できるよう公益法人制度改革が実施されました。当事業団も平成23年（2011年）に公益認定を受けてから14年が経過し現在に至っていますが、改めて公益法人として予防健診の普及、健康教育、健康増進のための啓蒙、啓発普及、医学研究助成といった活動を通じ、広く社会に対して医療の分野における公益性の高い事業を推進してまいります。

生活習慣病の疾病の病因・診断・治療および予防に関する調査研究のための 健診ならびに診療事業

（定款第4条第1号・第2号・第5号事業）

1. 健診研究事業・診療研究事業の取り組み

（1）健診研究事業・診療研究事業

- ・当事業団の根幹である研究の基礎データ収集のため、健診・診療事業の受診者増に取り組んだ。このデータをもとに生活習慣病とその他疾病の予防や病因解明の研究にあたり、また、健康啓蒙活動や健康相談においてデータを活用して事業団のテーマである「生活習慣病の撲滅」に役立てた。
- ・健診研究事業においては令和6年度の新規契約や大きな解約などはなかった。
- ・診療研究事業においては令和6年度の延べ患者数は前年より10,402名減少した。新型コロナ以降、自宅近くの医療機関を利用する患者さんが増加したことや患者の高齢化によることが要因。

（2）社会福祉施設無料巡回健診

- ・令和6年度も社会福祉施設無料巡回健診を行わず、集めたデータ分析と再開に向けた研究テーマの検討、健診時の感染対策などについて協議を行った。

2. 当事業団医師ならびに職員による研究活動

（1）臨床検査、エックス線検査の統計調査

令和5年度（令和5年1月～12月）に実施した臨床検査項目別の統計、消化器・胸部エックス線検査、エコー検査、CT検査等の撮影実数統計等は「事業年報」第51号に掲載した。

2 生活習慣病等の疾病の予防および健康保持増進のための事業

(定款第4条第2号事業)

1. 生活習慣病健診報告会管理者セミナー

このセミナーでは契約先の担当者を集め、毎年実施しているアンケート結果に基づき、関心の高い講演テーマを取り上げて行ってきたが本年度は中止とし、次年度に向けた開催方法、テーマ等について検討した。

3 生活習慣病等の疾病の予防・診断・治療に関する啓蒙、啓発および普及事業

(定款第4条第3号事業)

1. 健康セミナー・健康講座の開催

事業団のテーマである「生活習慣病の撲滅」に繋がる演題を設定し、ホームページ等で広く一般の方々から参加者を募集する健康セミナーを1企画、健康講座を1企画開催した。

2. 生活習慣病予防の啓発、広報活動

(1) 事業年報の作成・ホームページ掲載

令和5年度(令和5年4月～令和6年3月)に実施した集団健診、診療等統計調査と観察結果などをホームページに掲載した。

(2) 三越厚生事業団ホームページによる情報発信

公益財団法人としての経営情報の開示、公益活動の紹介等を行った。また、診療・健診情報をリアルタイムに更新した。

4 生活習慣病等の予防、診断、治療に関する医学研究助成ならびに研究者への各種助成事業

(定款第4条第4号事業)

1. 三越医学研究助成

生活習慣病その他重要な疾病の予防・撲滅に寄与する医学研究を発展させることを目的に東京都内ならびに東京都近隣の大学医学部、医学研究施設、病院等を対象に生活習慣病とその治療を中心とした研究課題について広く公募し、助成対象者を選抜して助成金を交付した。令和6年度の応募総数は9件で、そのなかより厳正な審査をへて受賞者4名を決定した。

2. 三越海外留学渡航費助成

海外での医学研究や医療技術習得を志す若手医学者で留学先受け入れ研究機関が決まっている者、もしくは海外留学中で留学受け入れ先の研究指導者の推薦がある者に対し、留学費用の一部として渡航費の助成を行った。令和6年度は23名の応募があり、選考のうえ5名の受賞者を決定し助成金を交付した。